

218) すぎゆく青春

あの人と袋小路に 行き詰まり かける音楽
若き日のうしろ姿を 追いかけて季節は流れる
^{たそがれ}黄昏る窓の向こうに 夕焼けの空はひろがり
悲しみに素直に泣けた あのころの私がいるの

泣きながら走った街は 今はもう記憶のかなた
若き日のうしろ姿は 思い出に残っているだけ
しのびこむ夜の^{とぼり}帳に カーテンはかすかに揺れて
マドンナに夢中になった あのころの私にかえる

透きとおる空に吸われて 恋をした青春の日々
若き日のうしろ姿を 見続けたポプラ並木に
秋風は疲れたように 気の抜けた笑みを浮かべる
息づまる都会に生きて 夏草は花を忘れた

あの人と袋小路に 行き詰まり かける音楽
若き日のうしろ姿を アルバムにさがしてみるの
^ふ更けてゆく夜の隙間に ^{あしおと}蹠音がとおりすぎてく
青春の空しき日々を 胸の奥深く刻んで